

Column 「未来のために～気候変動の影響への適応～」

環境省東北地方環境事務所 環境対策課地域適応推進専門官 金 鋼一氏

2015年末、COP21ですべての国が地球温暖化への対策に取り組むことが約束された、歴史的な協定『パリ協定』が採択されました。地球温暖化の進行で懸念される影響は、温室効果ガスの排出削減を最大限実施したとしても完全には避けられず、その影響に備えるための適応が必要だと言われています。

近年、毎年のように大きな自然災害が発生しております。今年も、九州、中部、東北と1か月にも及ぶ令和2年7月豪雨や、昨年は九州北部豪雨や台風15号、台風19号の大きな台風が上陸しており、もはや異常気象ではなく、気候変動が起きているという状況です。

気候変動の大きな原因は、私たちが排出している温室効果ガスだと言われています。温室効果ガスが増えると、気温上昇や降雨パターンの変化などの気候変動が起きます。

気候変動が起きると、生活、社会、経済、自然生態系などへ影響が及びます。このため、温室効果ガスを減らすという取組と、残念ながら顕在化する気候変動のリスクに適応していくという、両面から気候変動を捉えていくことが必要だというのが現状です。

気候変動の原因となる温室効果ガスの排出を少なくする対策、地球温暖化を防ぐことが「緩和策」で、既に生じている、あるいは将来予測される気候変動の影響による被害を避け、軽くなるようにする対策、気候変動の影響に備えることを「適応策」といいます。

緩和策と適応策は、どちらかを頑張ればいいというものではなくて、気候変動対策の車の両輪ですので、国も、都道府県も市町村も事業者もそして個人でも、両方に取り組んでいくことが大事です。



「緩和」と「適応」

出典：気候変動適応情報プラットフォーム(A-PLAT)



適応策の例

では適応策というのはどのようなことなのでしょう。緩和策なら省エネの徹底や資源の再利用・循環利用などすでに実施されているかもしれませんが、適応策はやったことがないと思っている人も多いと思います。でも、実は、誰もがやっているのが適応策です。

暑い日は、水をこまめに飲んだり、外に出るときは帽子をかぶったりして、一人ひとりが自分の健康を守る行動をすることも、暑熱に対する「適応」です。天気予報や防災アプリを確認することや、避難場所や避難経路を確認し、自然災害に備え身を守る準備をすることも重要な「適応」です。

つまり、適応策というのは、気候変動の問題ではありますが、直接的に私たちの命や生活を守る取組だということです。

地球上に、今起きているような急激な気候変動に適応できる種は少ないです。でも、ヒトには技術があり、適応の行動をしながら、生活の仕方を変えていくことができます。

未来のために、今、気候変動の影響への適応を始めましょう。